

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000952		
法人名	有限会社グループホーム幸		
事業所名	有限会社グループホーム幸		
所在地	北海道小樽市清水町20番9号		
自己評価作成日	平成26年3月10日	評価結果市町村受理日	平成26年5月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_3_022_kan=true&JigyosyoCd=0172000952-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年4月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームは長期にわたり入居される方が多いため、毎日の生活が家庭的に過ごせる様に少しでも多く関わりと声掛けに気を配っている。また、高齢者はいろいろな病気を持って入居される方が多いため、早期発見と早期治療を心掛け、出来る限り専門の医師を受診する様、本人家族と話し合っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム「幸」は、小樽駅から車で10分ほどのバス停前に立地している2ユニットのグループホームである。敷地内に法人のデイサービスセンターが隣接しており、広い裏庭でデイサービスの利用者とも交流し、池や花壇を見て散歩を楽しんでいる。開設から8年を迎えたホームは、利用者が楽しく過ごせるように、レクリエーションや外出機会を多くして熱心に取り組んでいる。代表者と管理者は看護師の資格を持ち、受診先を見極めながら家族とよく話し合い適切な医療機関に繋げている。体調変化にも早めの対応で、申し送り時やケアの中で職員への指導も行き届いている。管理者は町内会の活動や会議に積極的に参加して協力関係を築き、消防署立会いの夜間想定避難訓練には町内会役員の参加が得られている。その他、年4回の自主訓練を徹底して行い、災害時の備蓄品類も保管している。また各マニュアルも整備されている。申し送り時や毎月の内部研修で利用者の状態や課題を話し合い、職員の意見を取り入れて介護計画を作成し、計画に連動した介護記録を行いモニタリングに繋げている。職員は日々情報を共有してケアを行い、利用者が楽しめるように個別の意向に沿って丁寧に接している。

V. サービスの成果に関する項目(1階 りんごアウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 りんご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に、地域との交流を図ります、と掲げており、毎朝勤務前に復唱し、理念の共有に努めている。	地域との関係性の中で「今日一日を楽しく、愉快に、朗らかに過ごせる」という、地域密着型サービスの理念を毎朝の申し送り後に唱和することで、全職員に浸透している。職員は利用者に向き合い、理念を意識してケアを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	避難訓練に地域の方々を招くなどして交流を図っている。	管理者は町内会の会議や活動に積極的に関わり、事業所の裏庭を雪捨て場として地域に提供している。盆踊りを庭で行い、町内会役員の参加を得ている。昨年はボランティア訪問でのフラダンスを楽しみ、今後も機会を増やしたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に一度、ホームの便りを町内の役員に回覧して頂き、ホームの活動から認知症の方への理解になるよう働きかけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族への参加を促し、ホームが行っているサービス内容を事例を交えて話し合い、サービス向上に活かしている。	市の条例を基に年4回の会議を開催し、運営状況や取り組みを報告している。自然災害のテーマで勉強会を行い、消防署職員の講話から災害時の対応や地域の情報を学ぶ機会になっている。全家族に会議案内や議事録、サービス評価の結果を送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	改善すべきところや指導を受け止め、それに向けて職員全員が積極的に取り組むよう努めている。	制度の運用や疑問点を市の担当者に相談して助言を頂き、業務の改善を真摯に取り組んでいる。生活保護担当者の来訪時には情報を交換し、電話連絡を密にしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室の床にマットを敷くなど、転倒の可能性がある利用者には転倒予防をしている。	身体拘束にならない方法を事例ごとに話し合い、言葉がけや対応についても禁句表を基に確認している。禁止行為の11項目を正しく理解するため更なる工夫を検討している。玄関がバス道路に面しているため、中からリモコン操作で開閉し、利用者の様子を見て一緒に外に出ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の言葉使いや態度などについて内部・外部の研修を通じて学ぶ機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 りんご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在家族より後見人についての申し込みがあり、弁護士が中心になり、誰が後見人となるかについての話し合いを本人・弁護士・家族で進めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	消費税が8%になることによる介護報酬の改定においては家族に案内及び同意書を交わし面接時に再度納得して頂きました。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時などにお話を聞き、意見を反映するように努めている。	毎月、家族が料金を支払いに来る際に利用者の健康を第一に話し合い、穏やかな暮らしが出来るように家族の希望を聞いている。家族の意見などは、申し送り時や内部研修で情報を共有し、介護記録や看護記録に記載している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の内部研修、毎日朝の申し送りなどで意見を話し合えるようにしている。	職員の意見を取り入れて、ケアの方法を検討したり、業務の流れを変えることもある。必要な利用者には担当を決めて情報を共有している。その時に応じて個人面談を行い、職員の思いや勤務の希望を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が持つ資格等を反映し、やりがいのある環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修など、外部研修に参加できるように声を掛け、職員の1人ひとりの質の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修時及び親睦会を通じ、サービスの質を向上させるためにはどうあるべきかを話し合っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階 りんご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と関わる機会を積極的に設け、意見 要望を聞き、安心して過ごせるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始にあたり、理解して頂くことは現在の病気及び通院場所、ホームの生活が困難になった場合の対応をどうするかを話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居にあたり本人及び家族がホームの生活に何を望んでいるか何を支援してほしいかなどを話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話や軽作業など一緒に過ごす時間を多く作り、共に生活をしている意識を持てるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に一緒に過ごす時間を大切にして頂く。またホームでの生活や様子を伝え、その意向を支援に反映できるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や年賀状などやり取りを継続して頂けるよう支援している。	宗教関係の方々や家が近所だった友人が継続して来訪している。家族の協力で馴染みの場所に出かける他、職員の支援で馴染みの店でカラオケを数回楽しんだり、また年に2回ほど、お寺の納骨堂にお参りに行く利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクの時間など全員が集まる機会を設け、利用者同士の交流ができるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 りんご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院及び他の施設に移行された時、時々面会及び近況を聞いて相談や支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の関わりから一人ひとりに合わせたケアができるよう本人の希望や以降の把握に努めている。	利用者との会話から思いを引き出し、申し送り時に情報を交換している。状態の変化や課題を話し合い、アセスメントを見直す際に情報を蓄積して介護計画に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族から利用前の面談時にこれまでの生活や好みなどを把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活を通じて利用者一人ひとりの生活の過ごし方、健康状態などの把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝の申し送りや家族の面会時にそれぞれの意見を出し合い、それを介護計画に反映できるようにしている。	計画作成担当者は職員と毎月モニタリングを行い、それらを基に短期目標3か月、長期目標6か月を目安に介護計画を見直し作成している。「介護記録」の見開きに計画書を綴じ、職員は見ながら変化などを記録し、モニタリングに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活を記録し、それをサービス担当者会議を通じて介護計画の見直しに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日のケアを通じて、利用者の身体の不調などに留意し、病院受診も考え、早期に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	四季を通じ、山や海、公園などにでかけ、気運転換が図れるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族と相談し、それぞれの病状に合わせた専門医の受診を行うよう支援している。	かかりつけ医を含めて利用者の病状に合った受診先を見極めながら家族と検討している。看護師資格をもつ管理者が受診に同行し各主治医と関係を築いている。受診内容を日々の介護記録に記載しているが、時系列で把握しやすい方法も考えている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階 りんご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝の申し送りに看護職員が参加する事で利用者の1日の健康状態を把握し、適切な受診や看護への支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院・退院時、医療機関のケースワーカーを通じ介護・看護添書を交わし、情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化においては入居の時点でホームでの終末ケアは行っていないことを再々説明し、早い段階で主治医・本人・家族・ホームで相談し入院から療養型に移行する事を説明しております。	「医療連携体制加算重要事項説明書」を基に、重度化への対応や看取りの考えを文章で説明し同意を得ている。ホームでの生活が難しい状態になった時は関係者で方針を話し合い、病院などを紹介している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の訓練は機会があるたびに話し合い、定期的ではないが実践している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防署指導の訓練と定期的な訓練を含め計6回の防災訓練を行い、推進会議役員の方に協力をお願いしている。	消防署立会いで夜間を想定した訓練に町内会役員も誘導後の車椅子移動や見守りで参加している。災害備蓄品類を保管しているが、地震等の自然災害時の対応は今後の課題になっている。職員の救急救命訓練は定期的に行っている。	事業所内で地震等の災害を想定し、安全面の確認やケア場面ごとの対応について職員間で話し合う機会を持つことを期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人ひとりの言葉かけに留意し、全員が共有できるよう朝の申し送りや月に一度の会議で話し合っている。	職員は利用者に丁寧に接し、命令口調を使わず、禁句表を設けるなど留意している。気になる対応があればその都度注意している。個人記録はカウンターの中に安全に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来る要本人の思いや希望の把握に努め、日々のケアを通じて働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やおやつの時間などのルールは設けているが、1人ひとりの希望や意見に合わせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれ好みに合う衣類などを着て毎日を過ごして頂くよう支援している。一人ひとりの身だしなみについて個々に話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 りんご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの食事の状態に合わせて味付けや好みを把握し、食べやすい工夫(キザミ、ミキサー)に努めている。食事の準備や後片付けを職員と一緒にしている。	食材提供会社による献立をもとに、嗜好品などを加えて食事を提供している。利用者は下ごしらえや片付け、下膳などを手伝い、食事中は職員が介助や見守りを行っている。夏季は毎月のように外食の機会を設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は利用者一人ひとりに合わせて摂取して頂いている。本人の好みに応じて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けをして歯磨きをして頂いている。難しい場合は職員が介助で口腔内の生活に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間ごとのトイレ誘導を行っている。失禁を軽減し、清潔保持に努めている。	排泄チェック表により利用者の排泄パターンを把握し、利用者それぞれのタイミングに合わせて誘導している。誘導の際に小声で声かけしたり、トイレではドアの他にカーテンも使用して、プライバシーに配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便状態を共有し、一人ひとりに合わせて運動及び腹部マッサージを行っているが、それでも難しい場合は医師に相談し下剤で対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に入浴日は決まっているが、本人の希望や要望に合わせてるように努めている。	大まかに入浴の曜日を決めて、各利用者が週2回程度の入浴を行っている。入浴時間は午前が中心であるが、希望や状況に応じて午後も対応している。入浴剤を使用したり、入浴時に運動を行って楽しめるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息や睡眠は夜間の睡眠に影響が出ない限り、本人の自由にして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	朝の申し送りで目的や副作用について話し合っている。また薬の変更などがある時は確認と把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の下ごしらえや食器拭き等、本人の持つ力を活かし、張りのある生活を過ごして頂くように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階 りんご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を聞き、レクリエーションの内容や日程を調整している。季節に合わせた行事や家族との交流、地域の行事に参加するように努めている。	日ごろから事業所の広い庭で散歩や外気浴を行い、お菓子屋さんやホームセンターへの買い物や定期的な外食にも出かけている。行事では緑化植物園や手宮公園、余市の果樹園、天狗山など様々な場所に出かけている。冬季も頻繁に通院しているため外出機会が確保されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭はホームで管理しておりますが、本人や家族の希望に応じて話し合い、所持できるように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙、年賀状などでやり取りを支援出来るようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場所と居室は離れており、音や光などによる刺激を緩和できるように配慮している。季節や行事に合わせて飾りつけなどを取り入れ、日々の生活を感じられるようにしている。	共用空間には大きな窓が多数あり、開放的で、窓から庭や景色を眺めることができる。花や鉢植え、生活用品なども自然な感じで配置されている。壁には写真や絵画など落ち着いた雰囲気のもの飾り付けがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを見ながらお話をされるダイニングや庭の散歩の際に休まれながら会話ができるベンチなど、落ち着いて過ごすことができる居場所の工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望や要望を出来る限り取り入れ、写真や思い出の品などを活かして居心地の良い場所になるよう工夫している。	居室の入口には利用者の写真を載せた表札がある。居室内には利用者がテレビやベッドなど馴染みの生活用品を持ち込むことができ、安心して過ごせる場所となっている。壁にもカレンダーなどを自由に飾り付けしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には写真と名前を飾り、トイレの場所は電灯でわかるように工夫している。転倒の恐れのある方は居室にマットを敷き、安心して生活できるように努めている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000952		
法人名	有限会社グループホーム幸		
事業所名	有限会社グループホーム幸		
所在地	北海道小樽市清水町20番9号		
自己評価作成日	平成26年3月10日	評価結果市町村受理日	平成26年5月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&JigrosyoCd=0172000952-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年4月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「1階 りんご」ユニットに同じ

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(2階 みかん アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階 みかん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り後、その日の勤務者全員で理念を声を出して復唱し、実践に活かせるよう努力している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の役員会議、除雪会議、廃品回収、消防訓練保健所の出前講座等の参加を呼び掛けている。		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホーム便りを2ヶ月に1回発行し、地域の人々の理解を得る様努めている。		
4		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議時3ヶ月間の出来事を中心に報告し、意見の交換を行いサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からない事、疑問等を報告しアドバイスを積極的に受けている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には身体拘束をしないケアの実践に向けて努力している。		
7	7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	特に力を入れているのは、言葉による虐待がないよう日頃より注意を払い防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階 みかん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修時、認知症の自立支援とは何を支援するのか成年後見制度は何かを学び、内部研修時に話し合いの場を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、運営規程、重要事項説明書、医療連携体制加算重要事項説明書などを説明し、理解・納得した上で契約をさせて頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族が面会に来られた時、意見要望を積極的に聞き、内部研修、運営推進会議の時に議題の1つとして話し合いの場を設けている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝の申し送り時、利用者の健康面、日常生活を話し合うだけでなく、ケアに対して報告連絡相談について問題点があれば話をする機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は時として強い口調で注意したり指導しがちになるので充分注意し、やりがいのある気持ちを持つ様に職場環境に充分気を付けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1ヶ月に1度の内部研修や機会があれば外部研修へ積極的に参加を呼びかけ資質向上につながるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアに対し、疑問や解決したい問題があれば、同業者に相談を持ちかけ、サービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階 みかん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に対し、不安感の強い利用者さんには入居前にホーム訪問や体験入居を勧め、安心感を確保できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居を希望する本人及び家族の方は入居するしないに関係なく、必ずホームに訪問して頂き、家族から困っていること、不安なこと、要望等を聞き、それに対するホームの考え、方向付けを説明し納得して入居できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居するにあたり、本人、家族がホームに対し何を希望しているを聞かせて頂き、出来る限り希望に沿えるよう努力する事を話し合うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活しているという関係をつくるため、コミュニケーションを多く持つ様にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にホーム内での様子を伝え、また、面会などをお願いする事で共に支えていけるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人との面会は積極的にお願ひしたり、なじみの美容室に出かけたり、夫の墓参りに出かけたり時々なじみのカラオケに誘ったりと声掛けをしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の人間関係を把握し、大人数がある⑤場所などで円滑にコミュニケーションをとれる様に働きかける。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階 みかん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された利用者の家族と年賀状をやりとりするなどして交流を続けられるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の好み、興味を把握した上で関わりを持ち、その時の希望・意向を把握するようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始の段階で家族や本人に話を聞き、生活歴を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	丁寧に記録する事を心がけ、現状の把握ができるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の朝の申し送り時、個々の課題が上がる場合が多いので、その課題に応じ、本人・家族・医療機関等と話し合い、現実に即した介護計画を作成できるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいた個々のケアを記録し、問題が発生した場合、報告、連絡、相談しながら実践し、計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	高齢者は日々身体的・精神的に変化が著しいため、その時々臨機応変に対応しなければいけない場合がおおく、1つのことにこだわることなく、多面的に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	四季を通じ海や山、公園などへのドライブを楽しみ、自然の空気に触れたり食事に出かけたりしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は基本的に専門医の医師にお願いすることにより適切な治療を受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階 みかん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は毎日ケアをしているヘルパーの報告連絡相談を看護師の立場から捉え、適切な専門医の診察及び看護が受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	高齢者の疾患は1つにとどまらず、多数の病気を抱えていることが多いため、できる限り総合病院を敵機的に受診し、他の病気に対しても早期発見早期治療できるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の条件の1つとしてホームでの終末期を迎える事は出来ない。その理由説明を十分させて頂き、納得してもらっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	不定期であるが、内部研修時、誤嚥及び蘇生時にに対し、また12月頃より流行するノロウイルスに対する実践訓練及び救急車の連絡方法なども訓練している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3ヶ月に1度、ホーム内での夜間を想定した火災訓練及び年2回消防署の職員を招き火災訓練を実施し、時には推進会議の委員の協力を得て町内に訓練参加を呼び掛けている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活において言葉使いは十分注意して接している。特に命令調の言葉使いにならないよう日頃から話し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事やおやつの時間、みんなが集まった時に日常生活において希望や不満等を聞く機会を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の関わりの中から今日何かやりたいことはないか、その人のペースに合った日々が送れるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の朝の更衣時、希望の衣服を聞き、おしゃれに気を使っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階 みかん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みに合う様に魚であれば焼くのが好きか煮るのが好きか、ご飯に乗せるか別々にするのかと好みを聞いて作っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスは業者の栄養士が管理しているが、時として高齢者に喜んで頂けるものを用意する時がある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを行っている。自力で出来る人、介助が必要な人があるが、清潔安全に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で失禁時間を割り出し、近くになったら声を掛けたり誘導するなど、出来る限りオムツ利用を減らすよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	昼から毎日ラジオ体操、手足の運動、手すりにつかまり屈曲運動をし、天気の良い日は庭散歩、雨の日は廊下歩行をして、飲食物はヨーグルト・ヤクルト等を飲んで頂いております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一応、入浴の曜日を決めているが、本人が希望すればその限りではないことを日頃より話し合っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常における生活は自由で休息時間は決まっているわけではありません。個々の生活習慣に任せております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用などにおいては常に把握するように努め、変化が出現した時は良し・薬剤師のアドバイスを受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活において、楽しく過ごせる様におやつ時間を設けたり、レクを楽しんでいる。また、一カ月に数回、みんなの食べたいものを聞いたり気分転換に海や公園に出向いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階 みかん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は必ず庭散歩及び日光浴を楽しむことができるように努めている。また、季節ごとにドライブに出かけたり、食事外出を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は本人・家族・ホームで話し合い、ホーム管理とさせて頂いているが、買い物及び外泊時、お金を所持して頂き、自分が支払う事が出来ない場合は家族の協力を求めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話及び本人が希望したりホームより声掛けをしたりして、家族との関わりを密にできるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は十分とは言えないが、食堂に観葉植物・金魚を育てたり窓から庭を見る事により、季節感を感じる事ができ、居心地良く過ごせる様に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間である食堂には食事の時以外も気の合った利用者同士が話し合う場所になっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は1人部屋になっており、本人家族が面会の場所として利用している。また、家族の写真や仏壇なども持って来て頂き、居心地良く生活できるように努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	最低限のルールを設けているが、それ以外は自由な生活を送って頂いております。		

(別紙4-2)

目標達成計画

事業所名 有限会社 グループホーム幸

作成日：平成 26年 3月 20日

市町村受理日：平成 26年 5月 12日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	3	認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に分かってもらうためにはどうすれば良いか。	町内でキャラバンメイトの講話を実施する。	町内の方々にキャラバンメイトの講話を聴いて頂けるように民生委員を通じ話しかける。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。